

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 2月 3日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200866		
法人名	有限会社 サカコーポレーション		
事業所名	グループホーム ガーデンの家		
所在地	〒731-0103 広島県広島市安佐南区緑井七丁目5番11号		
自己評価作成日	令和4年12月31日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyoNoCd=3490200866-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	令和 5年 2月 3日（金）

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

認知症の方がその人らしい生活を送れるよう、日々関わっています。職員の申送りを大切にし、入居者様がどのような一日を過ごした把握し、職員同士で共有しています。季節の行事を企画、実施し季節感を感じて頂いています。コロナ禍という事もあり、地域の感染状況を確認しながら、直接面会やZOOM面会を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム ガーデンの家は、山陽自動車道広島ICより3分、JR可部線「七軒茶屋駅」に隣接していて、交通の便はとても良い所に位置している。病院と介護付き有料老人ホーム、小規模多機能型居宅事業所が併設しており、会議等情報交換が盛んに行われている。利用者の様子を細やかに観察し、タブレット等を活用して、アセスメント事項や報告事項等、職員間での情報の交換と共有に努めている。新規の利用者に対しては、状況や思いを短時間で把握するよう努め、従来からの利用者とのスムーズな関係を築けるよう、職員がコミュニケーションを取り持って、居心地の良い空間となるように支援している。細やかな観察力により、状態の変化に早期に気づき、早い段階で主治医への報告と対応が行われている。コロナ禍で地域の方との交流が出来ないので、コロナ収束後は、以前のように地域の方や家族を招いて演奏会を開催したり、門松を作ったり、餅つきや子供達のプールを設置して開放し、地域と交流したいと思っている。

グループホーム ガーデンの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の朝礼で理念を唱和している。地域の社会資源となれるよう地域を巻き込んだ行事を企画、実施していたがコロナ禍という事もあり、地域行事は中止している。	法人の経営理念と職員全員で作った運営理念の一つ、「最後の10年が最高の10年となるための様々な価値を提供する」を毎朝の朝礼と、2ヶ月に1回の倫理綱領(社内研修)で唱和して、その理念を共有し実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	地域住民が定期的にお花を届けてくれる。町内会の消防訓練や祭りなど地域の一員として交流は出来ていない。	コロナ禍だが 地域の人から花が届けられる等、交流は継続している。コロナ禍以前は、地域の方や家族を招いて演奏会を開催したり、門松を作ったり、餅つきや子供達のプールを設置して開放し、地域と交流していた。コロナが収束したら、再開出来るように検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	以前は認知症カフェを開催していたが、事業所が運営していく事が負担になり現在は開催できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	役員から出た意見を基に、体操の項目を増やしたり、地域の活動に参加する事を検討したりしている。	運営推進会議は、町内会長2人と、民生委員2人と、地域包括支援センター職員、管理者、職員で5回開催し、1回は書面開催し、事故、ヒヤリハット、身体拘束、利用状況、生活状況等を検討し、ている。又、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行っている。そこでの意見を、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	事業所を運営するうえで不明な点があれば、連絡を取り確認をしているが、その他の事ではあまり連携を取れてはいない。	担当者とは、電話や介護保険更新時には直接出向いて、相談したり情報交換して、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、電話や運営推進会議時に情報交換して、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止推進委員会で、「5つの基本ケア」の中から「起きる」ことに力を入れている。職員都合の離床ではなく、入居者本人のリズムを大切にすることで、身体拘束廃止に繋がる考え方を職員へ周知している。	併設の施設と合同で、不適切なケアやスピーチロックをテーマにして、勉強会を実施しており、職員は拘束について正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束廃止推進委員会は、定期的で開催され、事例を通して学び、身体拘束、虐待の内容や弊害について、正しく理解している。施錠はしているが、外出したい利用者に気付いた時は、言葉かけの工夫をしたり、可能な限り職員と一緒に掛けて、気分転換を図っている。スピーチロックについては、管理者やリーダーが、その都度指導している他、職員間でも話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止検討委員会で、自己点検→集計・分析→ワークシヨップ開催→改善計画の実施→評価の流れで年2回取り組んでいる。		

グループホーム ガーデンの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	権利擁護に関して学ぶ機会が持っていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、対面にて説明を行いご本人やご家族から不明な点が無いか確認を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	事業所入り口に意見箱の設置をしているが、ご家族からの投函はない。コロナで面会等が制限が掛かっているため、直接意見箱への投函以外の方法を検討していく必要がある。	家族には、電話や面会時、プラン作成時、事業所だより送付時、月1回請求書送付時に、利用者の状況を写真と手紙を添えて送付し、意見や要望が言い易いように工夫している。事業所は、家族の意見や要望を運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者と管理者が運営や経営についての情報共有を行う会議が月1回開催されている。代表者からの方針などはその後の事業所内でのミーティングでチームに発信する流れを作っている。	会議は、毎月1回開催の全体ミーティング(代表者、各管理者、本部参加)、部門ミーティング(管理者、計画作成担当者、リーダー参加)、チームミーティング(リーダー、職員参加)で意見を聞いている。管理者は、年2回個別面談をして、意見や提案(利用のケアに関する事・休み・物品購入等)を聞いている。職員の意見や提案は、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の実績考課で、管理者を含めた職員一人ひとりの目標に対しての結果と実績考課、能力考課で昇降格審査が行われる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	奇数月に倫理綱領(法人内研修)、偶数月に事業所内研修を開催し、職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者との交流の機会は持っていない。		

グループホーム ガーデンの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	「～してほしい」とご本人の意思を伝えてくれる方に対しては、聴きながら対応できている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面会、ご家族との電話対応時に報告、相談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	計画作成担当者が聞き取りをした情報を基に対応しており、「その時」にまず必要としている支援の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人に寄り添うケアを行うために、困った事、取り組みたい事、どう過ごしたいかなどを聞き取りながら対応しているが、リスクについては管理の視点が強くなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族と相談しながらご本人のケアについて決定している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域住民との交流や馴染みの方の来所は受け入れていたが、コロナ禍で途切れてしまっている。面会に来られるのはご家族のみとなっている。	家族との面会は、ガラス越し面会、リモート面会 ベランダ越し面会 年賀状 手紙 神社へ初詣、法事、結婚式、葬儀 自宅周辺のドライブ等を行い、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	希望者には一人席を作っているが、その他の方々は数人でテーブルを囲み、関わられるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用の終了後は、来ていない。		

グループホーム ガーデンの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族、多職種(管理者、計画作成担当者)を巻き込み行っているが、意志疎通が困難な方や認知症の進行が著しい方についての対応が苦手である。	入居前の面談や訪問によって、これまでの暮らし方や好きな物、特技、家族の意向などを「フェイスシート・アセスメント」に記録する他、入居してからの事業所内での本人をとりまく環境(場所、人)等を「アセスメント表」に記入している。日々の関わりの中で、利用者が発した言葉や表情、行動等を「ケース記録」に記入して、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族からの情報を参考にして、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用開始時にアセスメントで聞き取りした情報とは別で、日々の関りの中でご本人やご家族から以前の様子を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝礼や夕礼で情報共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプラン作成時には介護職員も同席し、ご家族と情報共有し、ご家族の意見も反映させプランの作成をしている。	計画作成担当者と、利用者担当職員が中心となって、ケアカンファレンスを開催している。本人や家族の意向を聞きながら、医師や看護師の意見を参考にして、全職員で話し合い、介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、「カンファレンス表」に記録し、6ヶ月毎に計画の見直しをしている。利用者の状況に変化があった場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録はiPadや紙ベースに記録している。日々の申し送りや職員の気付きを計画作成担当者とも情報共有し、プランの変更に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	主治医の変更について、ご家族が対応できる場合は外部受診、難しくなったら往診へ変更の形をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源との協働については取り組めていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診については、ご家族へ相談し行なっている。	かかりつけ医は、利用者と家族の希望している医療機関としている。月1~2回の各々のかかりつけ医の往診がある他、訪問看護師が週1回、利用者の健康管理を行っている。他科受診は、家族の協力を得ており、コロナ禍で、与薬のみ又は、訪問診療での対応としている。受診結果は、家族には、面会時や電話で伝え、職員はタブレット「安佐地域情報シート」を活用し記録する他、申し送り時に伝えている。緊急時や休日夜間には、訪問看護師とかかりつけ医と連携し、適切な医療が受けられるように支援している。	

グループホーム ガーデンの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回、訪問看護ステーションへ状態報告を行い、必要時には訪問看護師から連絡が来るようになっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	計画作成担当者がMSWやご家族へ状態確認を行い、食形態や嚥下状態、介助方法や福祉用具などの把握に努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取り対応の方から主治医やご家族、介護職員と情報共有を行なっているが、早い段階からは出来ていない。	契約時に、重度化や終末期に事業所が出来る対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早めに家族の意向を聞き、主治医や看護師と連携して 他施設(病院・特養)への移設を含めて話し合い、方針を決めてチームで支援に取り組んでいる。看取りを、2名実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応研修を行なっている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に3回、火災と水害を想定した避難訓練を行なっている。地域住民との協力体制については、運営推進会議で議論したが、地域住民からは協力が難しいと返答されている。	年3回(内1回は消防署参加)、拠点施設合同で、昼夜間の火災を想定した通報、消火器の使い方について、誘導、避難訓練を利用者と一緒に行っている。当地域は、災害を経験した浸水地域である事から、水害時の避難場所は、事業所の2階としている。1階の小規模多機能事業所利用者を、実際に2階に避難させる事を行っている。今後、災害時の連絡網や、地域との協力体制について、運営推進会議の中で進めて行く予定としている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	まだまだ全職員が対応できていない。チーム内で、不適切ケアがなかったか毎日確認をしている。	管理者は、日頃から利用者の話を聞く姿勢や、言葉遣い、きちんと丁寧な説明をする事を職員に伝えており、職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な場面があった場合は、その都度管理者が指導し、職員間でも話し合っている。記録等の個人情報、取り扱いに留意し、守秘義務を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	働きかけて自己決定できている方もいれば、そうでない方もいる。			

グループホーム ガーデンの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	想いを表した際に職員都合で対応が出来ていない事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節、気温によって服装を決めている。起床時の整容も出来ていない時もある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭きやお盆の準備を手伝っていただいている。	食事は、3食とも併設の病院厨房から届けられ、ご飯とみそ汁は、事業所で作って提供している。利用者は、下膳とテーブル拭き等、出来る事を職員と一緒にしている。おやつ作りは、パンケーキやおはぎ、ゼリー等を作り、楽しまれて食している。又、季節行事食(おせち料理、節句の寿司、ひな祭り、七夕等)食事が楽しみなものになるように工夫して支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士が考えた食事が提供されている。水分摂取が難しい方は、お茶ゼリーやとろみを付け提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	拒否がある際には綺麗にケアできない事もある。訪問歯科の定期清掃を実施している方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	職員が関わる事への拒否がある方については把握が難しいが、介助が必要な方には関わっている。排泄パターンの把握や自立に向けた取り組みは出来ていない。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や、排泄に自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	薬に頼りがちになっている。運動や食事での予防に取り組みたい。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員都合で入浴のタイミングや入浴日を決めてしまっている。	入浴は週3回で、利用者の好みの湯加減にして、ゆっくりと入浴出来るようにしている。入浴剤で香りを楽しみ、職員と歌を歌ったり昔話をして、ゆったりと入浴している。利用者の体調に応じて、清拭、足浴、シャワー浴、部分浴の支援をしている。入浴したくない人には無理強いをせず、時間をずらしたり、職員を交替したり、言葉かけの工夫をして、個々に応じた入浴の支援をしている。	

グループホーム ガーデンの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人のペースや希望に合わせて支援しているが、職員によって対応に差が出てしまっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	症状の変化の確認はしているが、全職員が薬の把握は出来ていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご本人が出来ない方やニーズが確認できない方には、行事やレクリエーションに参加していただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	実施出来ていない。	天気の良い日には、事業所周辺の散歩やバルコニーに出て、外気浴や日光浴を行い、シャボン玉を飛ばしたり、木々を眺めたり、季節を感じられるように支援に努めている。かかりつけ医の受診に、家族と出かけている。地域の神社に、初詣に出かけている。又、駐車場の桜の花を見に出かけている。コロナ禍が収束したら、外出に出かける予定を組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	実施出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族へ電話したいを希望があるときには対応している。ご家族からの手紙はご本人へお渡しし、読んでいただいている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	臭いの面では芳香剤を置いたり、フロアの掃除は毎日実施している。外部業者による定期清掃も実施している。食堂の椅子だけでなく、ソファを置いたりして居心地の良い環境作りをしている。	台所兼リビングは、陽ざしが良く入り明るく、テーブルとソファ、テレビを置き、利用者が思い思いの場所で過ごす事が出来るようになっている。壁には、利用者と職員が一緒に作った季節の壁面（切り絵や貼りえで作った作品）が飾ってある。温度や湿度、換気、清潔に配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ユニット間で散歩をしたり、入居者同士で話をしたりと居場所を作れるようにしている。		

グループホーム ガーデンの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>写真や家具、作品などを置いている。使い慣れた家具などの持ち込みも可能。</p>	<p>机や椅子、タンス、衣装ケース、テレビ、化粧道具、食器、ぬいぐるみ、ラジカセ、時計、植木鉢、ハンガーラック、花瓶、本等の使い慣れた物や、好みの物を持ち込み、家族の写真、カレンダー等を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>リスクマネジメントの視点が強く、早い段階で職員が止めてしまうことがある。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム ガーデンの家

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム ガーデンの家

作成日 令和5年2月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	7	どのようなケアが不適切ケアになるのか理解できていない職員が多い。	虐待防止に関する基本的な知識を身につける。	年2回のワークショップ内での研修開催	令和5年4月～令和6年3月
2	27	職員間の情報共有不足や判断が職員優先になっているため、利用者優先の考え方になっていない。	認知症ケアや日々の関わりが利用者優先になる。	認知症ケアについての勉強会開催。 介護技術向上のための勉強会開催。	令和5年4月～令和6年3月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。